

【白石町】

1人1台端末の利活用に係る計画

(1)現状と課題

白石町においては、令和3年度に1人1台端末の導入を完了し、児童生徒一人ひとりに個別最適化された学びや、協働的な学びの実現を目指した教育活動の基盤整備を進めてまいりました。

しかしながら、現状を鑑みると、教職員のICTスキルには依然としてばらつきがあり、端末の活用状況は学校や担当教職員によって差が見られる状況です。

具体的には、授業支援ソフトやデジタルドリルソフトなどの活用が十分に進んでいないこと、家庭学習における端末活用が一部の学校・児童生徒にとどまっていること、情報モラル教育の実施は進んでいるものの、SNSの利用に伴う新たな課題への対応が必要となっていることなどが課題として挙げられます。

(2)目標

GIGAスクール構想の第2期においては、これらの課題を克服し、ICTをより効果的に活用することで、児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育の実現を目指します。

具体的には、以下の5点を目標として掲げます。

①個別最適な学びの実現

児童生徒一人ひとりの学習状況を的確に把握し、個に応じた指導や学習支援を提供することにより、学習効果の最大化を図ります。

②主体的・協働的な学びの促進

ICTを活用することで、児童生徒が主体的に学び、互いに協力しながら課題解決に取り組む力を育成し、創造性豊かな人材の育成を目指します。

③深い学びの実現

ICTを活用した探究的な学習活動や創造的な表現活動を充実させることにより、児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高め、深い学びを実現します。

④家庭学習の充実

端末の家庭への持ち帰りを促進し、デジタルドリルソフトなどを活用した効果的な家庭学習を支援することで、学力向上と学習習慣の定着を図ります。

⑤情報モラルの育成

情報モラル教育を充実させ、インターネットの安全な利用方法や情報社会のルールを指導することで、ICTを安全に責任をもって活用できる能力を育成します。

(3)具体的な取組

上記の目標を達成するため、以下の具体的な取組を推進します。

(ア) ICTを活用した授業改善

授業支援ソフト、デジタルドリルソフトなどを効果的に活用した授業を展開することにより、児童生徒の興味関心を高め、理解を深めます。

各教科におけるICT活用のモデル授業を開発・公開し、校内での共有を図ることで、教職員のICT活用スキル向上を促進します。

児童生徒の学習状況を把握するためのICTツールを活用し、個別最適な指導を行うことで、学習効果の最大化を図ります。

オンライン学習プラットフォームを活用し、協働的な学習や個別学習を支援することで、多様な学習ニーズに対応します。

(イ) 教職員のICT活用能力の向上

ICT活用に関する研修を定期的実施し、基本的な操作スキルから応用的な活用方法まで、段階的に習得を支援します。

優れた活用事例を共有する場を設け、教職員同士が互いに学び合う機会を促進することで、校内全体のICT活用レベル向上を図ります。

ICT支援員を配置し、授業におけるICT活用に関する相談や技術的なサポートを行うことで、教職員のICT活用を円滑に進めます。

(ウ) 家庭学習における端末活用の促進

端末の家庭への持ち帰りを推進し、家庭学習におけるICT活用を促進することで、学習機会の拡大を図ります。

デジタルドリルソフトなどを活用した家庭学習の課題を配信し、学習習慣の定着を図ることで、自律的な学習態度の育成を目指します。

保護者向けに、家庭学習における端末活用のガイダンスを実施することで、家庭と連携した教育活動を推進します。

(エ) 情報モラル教育の充実

情報モラルに関する授業を定期的実施し、インターネットの安全な利用方法や情報社会のルールを指導することで、児童生徒のICTリテラシー向上を図ります。

SNSの利用に関する指導を強化し、サイバーブリングや個人情報漏洩などのリスクを予防することで、児童生徒の安全確保に努めます。

フィルタリングソフトなどを活用し、有害情報へのアクセスを制限することで、児童生徒の健全な育成を支援します。

(オ) 不登校児童生徒への支援

デジタルドリルソフトやオンライン学習プラットフォームを活用し、不登校児童生徒の学習を支援することで、学習機会の確保に努めます。

オンラインでの個別指導や相談を実施し、学校復帰を支援することで、不登校児童生徒の社会参加促進を図ります。

(カ) 端末の活用状況の把握と評価

端末の活用状況に関するアンケート調査や授業観察などを実施し、効果と課題を把握することで、ICT活用の現状を分析します。

調査結果を分析し、次年度以降の計画に反映することで、PDCAサイクルを構築し、継続的な改善を図ります。

(4) 目標達成に向けた観点

目標の達成状況は、以下の観点に基づき判断します。

1. 個別最適・協働的な学びの充実(目標①・②・③に関連)

○児童生徒が自分で調べる場面

デジタル教材やオンライン百科事典の活用状況を把握し、情報検索スキルや情報リテラシーの向上度を評価します。児童生徒が主体的に情報を収集し、深い学びを実現しているかを検証します。

○児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面

プレゼンテーションソフトや動画編集ソフトの活用状況、発表・表現活動の回数や内容の質、相互評価やフィードバックの活用状況を評価します。児童生徒が創造的に表現し、互いに学び合う協働的な学習を促進しているかを検証します。

○教職員と児童生徒がやりとりする場面

学習管理システムや学習支援ソフトの活用状況、オンライン質問対応や個別相談の実施回数や内容、個別指導の充実度を評価します。教職員が児童生徒一人ひとりの学習状況を把握し、個に応じた指導や支援を提供しているかを検証します。

○児童生徒同士がやりとりする場面

オンライングループワークや共同編集ツールの活用状況、オンライン掲示板やディスカッションツールの活用状況、協働的な学習活動の回数や内容を評価します。児童生徒同士が協力し、主体的に課題解決に取り組む力を育成しているかを検証します。

○児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面
デジタルドリルソフトやアダプティブラーニング教材の活用状況、学習管理システムを活用した個別課題の配信状況、習熟度別学習グループの編成状況を評価します。児童生徒一人ひとりの特性や理解度、進度に応じた個別最適な学習を実現しているかを検証します。

2. 学びの保障(目標①・④に関連)

○希望する不登校児童生徒への支援

オンライン学習システムの利用状況、オンライン個別指導や相談の実施回数や内容、復学支援の実施状況を評価します。不登校児童生徒の学習機会を確保し、社会的孤立を解消するための支援が適切に行われているかを検証します。

○希望する児童生徒への端末を活用した教育相談

オンライン相談窓口の利用状況、チャットやビデオ通話による相談の実施回数や内容、相談内容に応じた情報提供の実施状況を評価します。児童生徒の悩みや不安を解消し、心のケアを行うための支援が適切に行われているかを検証します。

○外国人児童生徒に対する学習活動等の支援

多言語対応教材や翻訳ツールの活用状況、オンライン日本語学習支援の実施状況、異文化交流イベントの開催状況を評価します。外国人児童生徒の学習を支援し、多文化理解を促進するための支援が適切に行われているかを検証します。

○障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じた支援

支援機器やソフトウェアの導入状況、オンライン個別指導や相談の実施回数や内容、関係機関との連携状況を評価します。特別な支援を要する児童生徒の実態に応じた個別最適な学習支援が適切に行われているかを検証します。

これらの指標と観点に基づき、定期的な評価と改善を行うことで、ICTを活用した教育の質を高め、児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出します。